

教 育 長 賞

水をきれいに

沼津市立金岡小学校

三年 齋藤 さん

水は大切ですが、さい近おせんさわれていると言われていきます。ぼくがおせんを感じたのは、沼津の千本浜です。四月に「沼津の海ビーチクリーン」というせいそう活動にさん加した時に砂浜にゴミが多いなと思いました。一時間の間に三十人ぐらいで拾って四十五リットルで三十ふくろ分ぐらいのゴミがあつまりました。ゴミのしゅるいは、ペットボトルやカン、ビン、はっぱうスチロール、他にはくつやバケツがありました。中でもプラスチックのゴミが多く目立ちました。プラスチックってかんきょうにわるいからへらそうと思いました。

このゴミは千本浜でポイすてされたものや、すてられてから川や海ではこばれてきているものもあると思います。沼津市立図書館からプラスチックの本をかりて読んだことがあります。そこには、ゴミが海にすてられていて、魚やカメが苦しんでいると書いてありました。なぜ苦しんでいるかというと、プランクトンとプラスチックを間ちがえて食べてしまつて、胃がきずついてしまつたり、プラスチックでお腹がいっぱいになってえいよう不足になることもあるそうです。動物がかわいそうだなと思いました。

どうやってこのもんだいをかい決するか考えました。プラスチックのかわりに氷を使つてはどうでしょうか。氷は日に当たるととけるので使つた後に水にもどつてゴミにな

りません。プラスチックの原料の石油よりも水は多いし何回でも作り直せるのでべんりです。氷でストローやコップを作るとのみ物がつめたくなります。

反対にデメリットはさらに氷にするとあつい料理はさめてしまいます。プラスチックはまげることができけれど、氷はまげることができないので使いにくいです。氷はとけるのでプラスチックのように長もちしません。

まだこれだけじゃもんだいはかい決しません。プラスチックを分かいてできるびせいぶつを作ったり、ビンやカンのかわりに紙のパッケージを使うことでもゴミをへらせることができますと思います。

海にゴミが無くなると、海がきれいになって気もちがよくなります。海はつながっているので日本のゴミが少なくなると世界の海もきれいになって世界の人たちもきつと気もちよくなると思います。

ぼくの名前の洗の字には水が光るといいういみがあるので、水をよごさずに大切に使っていききたいです。